

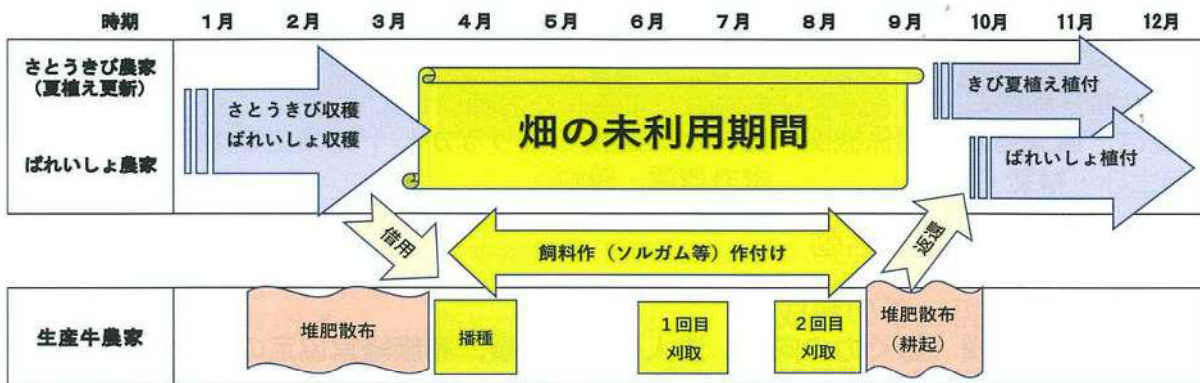
耕畜連携で耕種農家も畜産農家もWin Win !!

沖永良部島・与論島は、温暖な気候を生かし、さとうきびやばれいしょ、肉用牛飼育が盛んですが、肥料、飼料の高騰により、所得が少なくなっている現状にあります。

耕種農家、畜産農家おたがいの所得向上のためには、「耕畜連携」を図ることが必要です。

「**耕畜連携とは**」ばれいしょやさとうきびを栽培する「耕種農家」と、子牛を生産する「畜産農家」が連携をする取組で、お互いにメリットがあります。

耕種農家と畜産農家の耕畜連携の概要図



更新予定のさとうきびを収穫後、夏植えまでの間、生産牛農家が飼料作物を栽培し、深耕(耕起)して、さとうきび農家に返還する取組が見られます。また、ばれいしょ収穫後に生産牛農家に畑を貸して、飼料栽培を行う取組も見られます。



◎耕種農家のメリット

- ・ 収穫から次期植付間の畑管理負担軽減
- ・ 堆肥施用で肥料費低減, 土づくり効果
- ・ 輪作による連作障害の回避

◎畜産農家のメリット

- ・ 自給飼料増産による飼料費低減
- ・ 余剰堆肥の処理が可能